

大田区自立支援協議会 地域移行・地域生活支援部会要旨

文責：(齋藤委員・障がい者総合サポートセンター一部修正)

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 地域移行・地域生活支援部会 (第2回)			
(2) 開催日時	平成30年6月15日(金) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	委員 (部会長：伊藤委員)			
	白井 絵里子	山根 聖子	青山 明子	鶴田 雅英
	相原 美晃	齋藤 信子	林 達彦	榎 拓己
	井岡 幸子	山田 悠平	岡田 あい子	河又 保子
	田中 裕子	岡本 洋	川上 みどり	高田 みほ
	土屋 かおり			
	区職員：竜崎 香代 (健康づくり課 健康づくり担当係長)			
事務局出席者 障がい者総合サポートセンター：木伏係長、森田、柳田				
(5)内容・要旨	<p>1 連絡・確認事項</p> <p>(1) 司会・書記、出欠者の確認</p> <p>(2) 配布物の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門部会のみ委員は、おおた障がい施策推進プランを配布。 <p>(3) グループホーム連絡会の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月23日(月)知的・精神のグループホーム合同連絡会を開催。 ・行政から、第三者評価の補助金制度について、情報提供があった。 ・昨年度の地域移行・地域生活支援部会が発案した、各グループホームの行政の窓口向け情報発信シートが集まってきている。ホワイトボードに本日掲示。 <p>(4) 東京都自立支援協議会の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回本会の傍聴報告。協議会の構成については、東京都も大田区と似た印象だが、大田区では、委員と事務局が共同の意思をもって、取り組んでいる。 ・都の自立支援協議会では、8月23日(木)交流会、12月12日(木)にセミナーの開催が予定されている。 →事務局に情報が届き次第、みなさんに周知していく。 <p>(5) 事務局からの連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同部会を9月開催予定。次回の運営会議で日程が確定する。 ・相談支援部会から、個別支援協議会の出席について、依頼が入っている。 <p>2 前回の振り返り (議事録とご意見カードから)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の事例検討は、3障がいに分かれて実施。ワーキンググループは希望をもとに、調整した。 ・事例検討の解決策の評価方法として、「ロジックツリー」(原因と効果の道筋を考える手法のこと)を使用した振り返り等、提案があった。 			

・予定表に変更あり：作業部会 10月5日（金）→9月28日（水）

3 議題

(1) 公開勉強会の開催について

・地域を巻き込んで事業を实践・展開している方の取り組みを知ることがテーマとし、作業部会では候補者の案が出た。他に候補者がいる場合は、事務局まで連絡を。

(2) 大田区障がい者施策推進協議会に向けて

・今年度は7月と12月に開催。自立支援協議会として、白井会長が参加。
・7月の議題は、平成27年度～平成29年度のプランの取り組みの進捗状況を確認する。本日は、地域移行・地域生活支援部会として、障がい者施策推進プランへの関連性を意識して取り組んだ項目を中心に確認。
・推進会議では、他部会も同様に項目をまとめて報告したい。運営会議までに、他部会毎の取り組みと障がい者施策推進プランとの関連を事務局でまとめる。

(3) 事例検討の実施

◎テーマ：多摩地区の病院（施設）にいる大田区に戻りたい意思を持っている方に対して。

◎グループ：3障がい〔身体・知的・精神（2グループ）〕

【Dグループ】

○以下、4点について話し合った。

- ① 居住：グループホームよりも自由度が欲しい人が多いが、賃貸アパートを見つけるのも難しい。
- ② 情報：大田区版WAMネット、LINEなどの情報媒介手段の活用が見込めないか。
- ③ 生活：ボランティアでは見守りが厳しいため、制度が必要となるのでは。
- ④ 地域ネットワーク：お隣さんのような存在として、インフォーマルな資源に広がりをもたせ、その人を知っている住民を増やしていくことが必要。

【Cグループ】

〔本人〕

- ・長期化した入院の場合、退院の気力が削がれていることがある。
- ・気力があっても、相応の生活不安を抱えていることは決して少なくない。
- ・精神科病院によっては公衆電話の設置がない箇所もある。
- ・また病院にあったとしても、ナースステーション前の設置もあり、ある種の監視下にあり、電話により外への救援を求めることそれ自体に困難がある。

〔家族〕

- ・本人の思いとは別に、場合により入院を積極的に進めるのは家族である。
- ・家族が退院を拒否することで、病状の回復とは別にして本人が退院できな

	<p>いことがある。</p> <p>[支援者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の人が頑張るには限界がある。 <p>→病院と地域、行政と民間とネットワークを作り、官民一体となって、暮らしのあり方を考えていくことが必要。</p> <p>【Bグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大前提として、本人の意思確認が必要。本人の特性として、現状を変えるイメージが描きにくいいため、短時間で「戻す」ことを繰り返しながら、本人が『戻りたい』という意思をもつことが必要。 ・大田区の作業所や福祉施設が協力をして、“大田カミングデー”を企画し、大田区で生活する体験の場を設けることを提案。 <p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度抽出された課題から、医療的ケアのある方の生活を中心に検討。 ・保護者の相談先として思い浮かぶのは地域福祉課となるが、地域福祉課で対応が難しいと言われれば、そこで立ち止まってしまう現状がある。 ・基幹相談支援センターに相談できることを、周知することが大切。 ・実際に、基幹相談支援センターへ相談した結果を、通所先の保護者会などで共有し、地域福祉課以外にも相談先があることを広めていく。 <p>4 委員及び各関係機関からの情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供資料の配布。 <p>※次回日程（第3回）</p> <p>○作業部会：7月6日（金）10時～12時 さぼーとびあ3階集会室1</p> <p>○部会：7月13日（金）10時～12時 さぼーとびあ5階多目的室</p>
--	--